

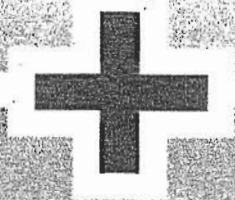
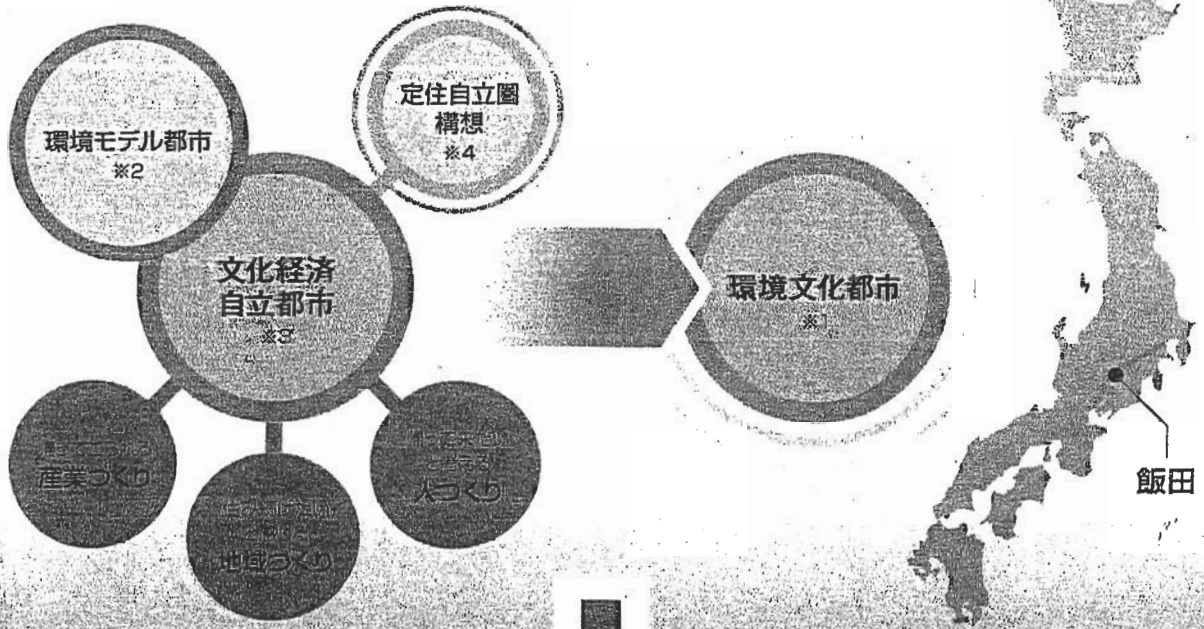
おひさまとまりが育む低炭素で活力あふれる

環境モデル都市・飯田

~ Green New Deal Policy in Iida ~

環境文化都市・飯田

飯田市では、環境を人類共通の課題として認識し、「21'いいだ環境プラン」に基づき、地域ぐるみで地球環境保全活動に取り組んできました。2007年には環境文化都市宣言を行い、人も自然も輝く文化経済自立都市の理念に基づき、産業づくり、地域づくり、人づくりを実践しています。そして2009年には環境モデル都市の認定を受け、低炭素で活力あふれる環境文化都市・飯田を目指し、先駆的な取組を実践しています。



太陽光市民共同発電の展開

～ おひさまパワーを生かして～

市民ファンドを活用し、市内や周辺地域で160箇所を超える公共施設や事業所の屋根を活用して、地域のエネルギー会社が太陽光発電による電気を供給する「太陽光市民共同発電事業」を展開しています。将来的には市内のあらゆる屋根で太陽光発電を普及させ、地域全体が「おひさま発電所」になることを目指します。



木質ペレットの利用拡大

～ 豊かなもりの資源を生かして～

豊富な森林資源を生かし、小中学校のペレットストーブや公共施設のペレットボイラーを中心に、南信バイオマス協同組合が製造する木質ペレットを利用し、森のエネルギーの普及を推進しています。



●飯田市南信濃「かく5のぞ」ペレットボイラー



産業界との連携

～ 環境と経済の好循環を目指して～

環境ISOをキーワードに活動する「地域ぐるみ環境ISO研究会」を中心に、産業界でも積極的に環境改善活動に取り組んでいます。また三菱電機(株)中津川製作所飯田工場には、2009年12月に太陽電池セル工場が増設され、地域の産業界とも連携しながら環境と経済が好循環するまちづくりを進めています。



飯田市の先進的な取り組み

飯田市環境モデル都市・行動計画概要

2050年

地域全体から排出される温室効果ガスを
2005年対比で**70%**削減

温室効果ガス排出削減目標

2030年

排出の著しい家庭部門からの温室効果ガスを
2005年対比で**40~50%**削減

「おひさま」と「もり」の エネルギーの総合利用への展開

タウンエコエネルギーシステムの構築と
中心市街地における低炭素まちづくりの実践

太陽エネルギーの利用促進

太陽光市民共同発電の仕組みや国の補助金、市の奨励金制度により、太陽光、太陽エネルギーの利用を促進します。

建築物の省エネ化

地域独自の環境価値を付加した省エネ型の建物の普及と高効率エネルギー機器への転換による低炭素住宅等の普及を促進します。

環境視点からの木材利用と 森林管理の推進

木材の生産から需要までの一貫した需給体制を構築するとともに、木質バイオマスエネルギーとして間伐材等を活用し、森林整備と木材利用を推進します。

中心市街地における タウンエコエネルギーシステムの展開

街区単位で太陽熱、木質ペレットによる面的熱供給を行う「タウンエコエネルギーシステム」を構築し、中心市街地で実証的に導入し他地区へ展開します。

移動手段の低炭素化

車両乗換や公共交通による
低炭素な移動手段の取り組み

電気自動車、電動自転車等、環境にやさしい車両への乗り換えの支援策や利用システムを構築し、移動手段の低炭素化を図るとともに、デマンド型タクシー導入等公共交通利用への転換を図ります。

産業界との連携

地域ぐるみで環境に配慮した
低炭素型企業活動への取り組み

企業の排出削減を重点評価する等により、地域版環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の取組を促進し、「地域ぐるみ環境ISO研究会」を母体にして低炭素な企業活動の実践の輪を拡大します。

低炭素社会に向けた 地域全体の意識変革

低炭素で活力あふれる地域社会の形成に
おける市民の参画と人材の確保

低炭素社会基本条例(仮称)により、地域全体で低炭素社会に向けての目標を明確にし、共有化します。地球温暖化防止コーディネーターを賛成し、市民の意識醸成、低炭素ライフスタイルの実践へと誘導します。

